



第152回 ACKU例会山行 氷ノ山

2012/5/19—20

恒例となった雪解け後の氷ノ山、今回は4人の新入部員を含む8人の学生が参加してくれて総勢19名の参加でにぎやかな例会となった。今年の冬の豪雪でデッキの前面の基礎が70mm程度沈んでしまったが、全体に積雪の重圧に耐えてくれていた。

山頂や水源の沢にはまだ残雪が残っていたが 樺の新緑が眩い初夏の気配がする氷ノ山の小屋生活を皆が楽しんでくれたと思う。

□参加者 19名

山岳会:

金井良碩 山本恵昭 白形洋・夫妻 井上達男(L)・夫妻

日帰り参加: 19日 小谷辰雄 高田和三 / 20日 矢崎雅則夫妻と子供

山岳部:

石丸(SL) (M1) 金(M2) 松尾(2)

新入生 松村(1) 吉澤(1) 山本(1) 高橋(1) 金さんの研究室友人 黄



□ 行動概要

2012年5月19日 (土) 晴れ



大段平にて橋本さんのバイクと



新緑が瑞々しいブナ

金井良、山本、白形、井上の4台にて大段平に。井上はJR八鹿駅に金、黄二人を迎えに行った関係で少し遅れて入山。大段平ではバイクで登ってこられた関大OBの橋本さんに出会った。彼はねむの木山荘にて宿泊者の面倒を見るために今回はヒュッテには登らない。金井良さんは石丸君たちと買出しの後に入山してもらった。鍵を井上が持っていたので心配していたが、午前中には小谷、高田和両氏がヒュッテに入って開錠して後続の到着を待っていてくれたので迷惑はかけなかったようで助かった。小谷さんは知り合いのご夫人二人をヒュッテにご案内であった。ビールの差し入れは嬉しい限りでした。ありがとうございます。

ヒュッテに到着すると学生達は早速山頂往復に出かけた。金、黄さんたちは出遅れたので山頂は翌朝にお預けとなった。

OBは早速ヒュッテの整備に掛かる。まずは水道の復元だ。金井、白形両氏にて完了し、まだ雪溪の残っている沢からの冷たい水が蛇口から出てきた。水道が出ると嬉しいものだ。ヒュッテで一休みする登山者も水道の水はありがたい様子だ。

昨年処理した 樾の倒木の横にもう一本太く折れた枝が残っていたが、持ち上げたチェーンソ - にて玉切りした。春先に風が強く吹いたのか、手ごろな 樾の枝が登山道に多数落ちていたので現役が手分けしてそれらを拾って薪にする。



大段平登山道から振り返る藤無山1139.2m

夕食は現役が台所にて調理してくれる。OBたちはデッキに出したテーブルの周りで南に裾を引く氷ノ山の尾根とその向うに連なる藤無山のピラミッド、さらに兵庫の山並みを眺めながらの宴会だ。山本さんは大段平から一人姿をくらませていたようだが、汗を掻き掻きヒュッテに到着。手にはコシアブラや葉山葵をたっぶり、それに平茸までマジシャンのごとく取り出してきた。井上夫人と金、黄さんは目をスズノコにして道すがらピニ - ル袋一杯のスズノコ(チシマザサ(根曲がり竹?)の筍)を採集した。時期的にまだ早かったがあれだけの量を採ってくるとは流石に井上夫人の名前がスズコだけのことはある、と亭主は納得。

平茸は夕食の鍋に、山葵はさっと熱湯をかけてオシタシになった。ワサビは湯掻きすぎるとあのツンとくる刺激が消えてしまうことを山本さんはよくご存じだ。コシアブラの新芽は天婦羅となって皆の舌を楽しませてくれた。

白形夫人がこの日のために焼いてくれたチーズケーキは皆に行き渡ったと思うが、あっという間になくなった。焼酎は紙パックが次々に消費されたが、ストーブの回りに集まって千本杉鍋(恒例の鍋料理)を囲んだ頃には随分出来上がっていたように思う。スト - プから熾きを取り出して牛肉の網焼きがふるまわれた。これも最近ヒュッテの定番メニューになっている。現役の口には物足りなかったかもしれないが、彼らの底なしの胃袋にはいつもビックリする。

白形、井上両夫人はなんといっても台所仕事から解放された夕刻を心地よく過してご機嫌である。いつもの清潔である家庭とは雲泥の差のヒュッテではあるが、その置かれたsituationが二人を幻惑しているのか、満足そうな表情に、無理やり?引っ張ってきた亭主たちはほっとした様子だ。



ACKU 例会山行記録 第152回 氷ノ山

新入生が4人も入部したのは何年ぶりだろうか。またすでに上級生で新たに入部した者が二人、さらにもう一人が入部希望だと言う。それを喜んだ老人の垂訓が始まったことには迷惑であったか。十代から八十代までが楽しみを共有するような会は他にあるだろうか、と云うことで神戸大学山岳会・山岳部の伝統として、

- 1)パイオニア・ワ - クすなわち未踏峰への挑戦を通じた未知への探求、
 - 2)もう直ぐ100周年を迎える伝統の継承、すなわち現役諸君の育成(部員獲得が喫緊の課題)、
 - 3)部員・会員の世代を超えた交流の場、すなわち氷ノ山千本杉ヒュッテの維持、
- が大方針となっていることを言わせてもらった。

山田事務局長からのメッセ - ジが携帯電話に残っていた。「19日、中国地質大学(武漢)がチョモランマ登頂成功」とある。徳慶欧珠(Deqing Ouzhu)、次仁旦塔(Ciren Danda)が活躍したようだ。おめでとう。中国の単独大学でのチョモランマ登頂は初めてで快挙といえる。

2012年5月20日 日曜日 高曇り

ご来光を期待して暗い内に出かけたものがあったようだがどうだったのか、明るくなるまで眠っていたのでよくわからない。昨夜はよく飲んだのだ。

朝食前に三班に分かれて行動することとなった。氷ノ山山頂往復組、薪割りと整理組、登山道の掛かり木刈掃い組を構成。



頂上組の白形夫人、登山は殆どやっていないと聞いてビックリ。白形さんも仕事柄山に復活はリタイア後だったので機会がなかったのか。頂上から帰ってきたときの表情は明るく満足されたようだった。



ACKU 例会山行記録 第152回 氷ノ山

た。金さんの同僚黄さんも山は六甲山のみ、今回は2回目の登山だということでヒュッテ生活を含めて初体験でワクワク。



やっとの思いで割れたブナ



ブナの玉切りに挑戦 苦戦中



女性陣は掃除に精出してくれた



新たに出来た薪のストック

薪割り組は悪戦苦闘。古い斧やナタは柄が折れるし、 樨は曲者ばかりでシワく刃が立たない。登山道に張り出した横枝の刈り掃いを終えて帰ってきたときにはまだ一本目の玉切り樨に挑戦中だった。それからあれやこれやと trial and error を繰り返して朝食後には何とか割れるようになった。薪割り用の楔が必要だがないので現役が樨の生木を削って作った。この楔が鉋を多くて4枚叩き込んだ後に有効だった。

ヒュッテの入り口左手の薪置き場が乱雑だったので全ての薪を一旦デッキに搬出した。湿った床を清掃して枕木を敷き大、中と炊きつけの小枝に区分けして整理、積み上げた。一部の割った薪は二階の階段脇に積み上げた。デッキの両サイドにも積んだので2年分ぐらいはストックできたのではないかな。

8時から朝食となり、食後に作業を続けていると、矢崎夫婦が悠君〔1歳〕を連れてヒュッテに到着。矢崎さんも一家の大黒柱となったんだと感慨新たな思い。あの厳しいLopchin登頂と夜間の生還を思い浮かべて今の幸せそうな家族に心が安らぐ。

薪割りは割れだすと止められない。もうそろそろ終わろうと何度か声を掛けて昼前にすべての作業を終えた。戸締りして小屋を後に下山。

山岳会のヒュッテ担当理事は本年度、土山さんから金井良さんに交代した。矢崎君は引き続きヒュ



ACKU 例会山行記録 第152回 氷ノ山

ッテ担当理事で活躍してくれる。早速ヒュッテの管理に目配りしてもらおう。雪で沈んだデッキの測定や水源の様子、薪の具合、工具類の痛み具合など、補修に必要な情報をメモして今後の作業に備える。帰路金井さんと井上は管理を依頼している鵜縄の片柴さん宅に挨拶に立ち寄った。

100周年記念事業にヒュッテの維持管理体制の強化と補修があるが、これから具体的な企画が練りあがるのが楽しみだ。

新入部員の皆さんにはこれを機会に自分たちのヒュッテであるという意識で愛着を持ってもらいたいと願いつつ第152回例会を現役・OB合同で無事に終えた。

(記録 井上 達男)